

# 北般若だより

2024年(令和6年)3月1日  
第324号  
北般若自治振興会  
北般若公民館

## 備えよう地震 安全神話崩壊

戸出農業振興協議会主催の「むらづくり講演会」が2月11日戸出コミュニティーセンターで開催され参加者約80人が富山県防災士会の吉澤実理事長による令和6年能登半島地震の概要と「防災に対する備えについて」を学んだ。富山県は災害が少ないと言われてきたが、今回の地震で覆された。

羽咋、かほく市にある邑知瀉断層帯のズレによる地震が起きると高岡市は甚大な被害が予測される。震源地は斜め下にある断層下部であり、驚くことにその震源地の真上は高岡市になるという。もしこの地震が起これば高岡市は耐震化率90%として死者954人と被害想定予測(平成29年)。そして戸出地区の想定震度は6強。重い家具は倒れ、戸が外れ飛ぶ。地震は日時を選ばないので、寝室から倒れる家具の撤去対策を指導された。 高畑利隆



## 能登半島地震の教訓から得たこと

石代防災会は「能登半島地震」後、全31戸に被害調査(調査6項目と要望事項)を実施した。集計結果は、1月21日の「自治会総会・新年会」の席上全員に配布された。今回の地震で大きな物損は無かった。しかし、1人暮らしや高齢の住民が多いことから、早期の安否確認を含めた対応等の課題や、防災訓練を定期的に行ってほしい等の要望があった。自治会は公民館に常置する非常時連絡網(班長持ち回り)の新規作成、会員緊急連絡先届(平成30年作成)を再確認し、4年ぶりに再開する各班の新年会(2月中に開催)で震災後の近隣会員の確認や連絡体制について話し合うように自治会長から指示が出された。今回の地震により、常日頃からの「一声かけ運動」の大切さや「転ばぬ先の杖」の重要さを教訓としたい。 自治会副会長 井林秀文



## 地震 その時あなたは！

～「北般若だより」編集委員の地震体験談～

- ◆1月1日の過去に体験した事のない大きな揺れは今も恐怖。「大きな地震」は必ずやってくる。防災意識を高めて、家具の転倒防止対策、夜間の外出着の準備、非常用持出袋の常備、車のガソリン満タン等、命を守るため、今すぐ出来る備えを進めたい。 山本睦男
- ◆帰省中の孫達と体験した大地震。ミシミシ柱がきしむ音で「外に出ろ！」と飛び出た。予測される南海トラフ巨大地震の恐怖を今回は身を持って感じた。 高畑利隆
- ◆妻の実家(射水市)で、「津波が来る！逃げろ！」の情報でショッピングセンター2F駐車場へ車で避難。その時の居場所で避難する先が違う事を知った。大井英己
- ◆「おっ、大きい！」危険を感じ、妻と共に屋外に逃げました。神戸や東北、熊本の震災は頭の中だけ、今回の能登地震を体験して認識が変わりました。 谷保修二
- ◆大きな揺れの中、娘は外へ飛び出し、私は食器棚の扉を押さえた。考えていた行動と実行のの違いに驚き、改めて意識を変えなければと思った。 出村美好
- ◆「災害は忘れたころにやって来る」日頃車のガソリンを残量半分で給油しているが、今回災害現状を目の当たりにし、もう少し出来る事を考えたい。宮東征夫
- ◆「立山連峰に守られている」という言葉に甘んじ、大きな地震が起これないという勝手な思い込みがありました。地震当日は、寝ることが怖く、服を着てコートと長靴、防災リュックを抱え、緊張しながら過ごしました。 青島幸子
- ◆まず自分の命を守る。家族の安心・安全の確保。やるべき事は何か？家族と話しをしようと思った。スニーカーをベッド傍に置くことから始めた。 盛野嘉章
- ◆揺れと同時に、母の安全確保。そしてテレビをつけ、玄関までの通路確保。数日間は車に寝袋とコンロ、食料、キャンプ用品を積み込みました。 大坪喜世美
- ◆地震が起きた時台所で火を止め、テーブルの下が安全か食器棚の倒壊は？と心配した。家具の固定等地震対策の重要性を改めて考えさせられました。 吉田郁子

## 「続・北般若について」文化講演会

2月18日北般若公民館で「続・北般若について」と題し高岡市立博物館の仁ヶ竹亮介氏を招き文化講演会(38名参加)が開催された。今回は行兼村御印、高岡新横町で一大歓楽街を開いた徳市屋三右衛門、大清水御亭について講演。



行兼村御印は、利常交付の村御印を先祖が肝煎(村長)の吉江等氏が博物館に寄贈された。当時の村の年貢割付状として保管していた大変貴重な資料で江戸時代の加賀藩の農政等が理解できる。徳市屋三右衛門(1822～97)は徳市村の無高の百姓の子として生まれ、坂下町で饅頭屋を始めた。後に新横町に広大な貸座敷を開き、伊藤博文も宿泊するなど高岡市の長者番付に記載される程の財をなしたそうだ。大清水御亭(おちん)は、豊臣秀吉より伏見聚楽の御殿の一部を利長が賜り、この地に小規模な御旅屋(藩主・役人等の休憩施設)を築いた。古文書等から当時の貴重な歴史が紐解かれることに感動した。「文化財レスキュー」にも協力を。 吉田郁子

## 千保川<sup>しゅんせつ</sup>浚渫工事行われる

前年度に引き続き、小矢部川水系千保川の浚渫工事が開始されました。今回は和みホール横から、春日橋下流約250mの区間が予定されています。長年堆積した土砂とそこに群生した葦等の、流出による川の堰き止め防止が図られます。また、春日集落住民が景観・環境美化のため行っている、堤防草刈が安全に実施できることが期待されます。工事開始に御尽力いただいた皆様に感謝致します。



浚渫工事 前



浚渫工事 後

春日自治会長 塚本潔

## 北般若地区等の動き

- 3/14 戸出中学校卒業式
- 3/18 戸出東部小学校卒業式
- 3/19 北般若自治振興会 IC パーク企業2社視察研修会
- 3/21 なのはな元気教室
- 3/27 戸出東部保育園卒園式・閉園式
- ※3/21～3/26 庄西用水水止め



## 野球しようぜ！

2月5日の朝、多くの子が楽しみに待っていた大谷選手からのグローブがついに戸出東部小学校に届きました。段ボールの箱を開け、グローブを取り出すのを息をのんで見守る子供たち。グローブと共に入っていた大谷選手からの手紙には「私は、このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気付けるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。」とありました。大谷選手に憧れ、野球を頑張りたい子供たち、野球には特に興味がないけれど何となく見に来た子供たち…どの子にとっても、何か希望の光を感じさせてくれる、存在感のあるグローブなのです。

校長 吉田真寿美



## 高岡市立公民館フェスタ開催

令和6年2月3日ウイングウイング高岡で第19回高岡市公民館フェスタが開催された。午前は第63回高岡市公民館研究大会、午後はホール発表が開催。作品展示の公民館PRコーナーでは市立公民館36館の活動紹介とサークル・文化教室の生涯学習活動作品展示が1,4,5階のフロアを使って華々しく行われ、日頃の公民館の実践活動が紹介された。 主事 青島幸子

